

## ▼意見等及び対応状況一覧＜令和6年度 ステークホルダーからの意見聴取＞

部署名	取組名	ステークホルダー	意見の内容	改善事例
法学研究科・法学部	学生アンケート	在学生	「授業評価アンケートがよくわからない」(留学生の意見)	留学生も多いため、英語版のアンケートを作成
高等司法研究科	研究科アンケート	在学生	自習室の汚れに関する指摘を受けた。	自習室のカーベットの交換、照明の設置、椅子の交換を行い、学習環境を改善した。
附属図書館	「附属図書館へのご意見・ご要望について」投稿Webフォーム	在学生	生命科学図書館玄関階段前の踊り場を走行する自転車が危険であるため、安全性を確保してほしい。	カラーコーン等を設置済み。本学交通WGによる交通量調査実施済み。引き続き交通WGに対応相談中。
附属図書館	学生と館長・副館長との懇談会	在学生	総合図書館グループ学習室の掲示の誤りを修正し、土日利用を可能にしてほしい。	掲示修正済み。土日利用可能としている。
附属図書館	学生と館長・副館長との懇談会	在学生	外国学図書館の座席数を増やしてほしい。	AVライブラリーブースを集約し、閲覧エリアに座席数を増やした。
微生物病研究所	所内構成員対象アンケート調査の実施	職員	大学の施策に対する改善点などの要望	部局運営方針等ヒアリング資料に記載、大学としての改善を要求
微生物病研究所	インターネット調査を活用した社会意識の可視化	その他	科学に対する疑問や、興味など	テキストマイニングにより分析、広報活動周知法の改善(インターネットを経由した周知方法を強化)、サイトコンテンツ追加(まんがによる説明コンテンツを増やす)。
微生物病研究所	微生物病研究所アウトリーチ企画アンケート	その他	企画に対する感想	毎年EXPOCITYで実施する企画について、アンケート感想をもとにゲーム要素を追加し、参加者が1.5倍になった。
産業科学研究所	企業との懇談会	企業関係者	10年後のコンセプトを打ち出すことで、学際融合を徹底した産研らしさを社会に対して訴求してほしい(令和5年度にいただいた意見への継続対応)。	大手企業6社のCTOとの懇談の場を年3回程度、各企業の共創を実現するための現場で開催し、産研の先端的なカーボンニュートラル/エコノミーに関連する研究テーマの紹介だけでなく、産研全体がチームとして目指す新産業創造テーマ、社会課題解決テーマ、学際融合システムのパッケージ化等の構想について、研究所所長より説明を行い、各社CTOから適宜アドバイスを受けている。
産業科学研究所	企業との懇談会	企業関係者	阪大産研らしさとその強みが公開されている各種資料からわかりづらい。他大学との違いも含めて、「産研の強み」を創造してほしい(令和5年度にいただいた意見への継続対応)。	産研Webサイトの全面リニューアル(令和6年4月)や各種SNSの活用も含めた広報体制強化による情報発信改善に加えて、戦略室が編集・刊行している産研『研究紹介』の記載テーマ内容の改良を重ね、デジタルブックなどの広域展開も実施している。年間複数回に実施している戦略室主導の産学連携展示会において、大阪大学、特に産研でしかできないイノベーション共創について、社会との対話の機会を増やし、企業関係者から見た産研の強みへの理解と新たなマーケティング実践のポイントを探索し、各種の展開にフィードバックをさせている。
蛋白質研究所	・共同利用・共同研究拠点に係る申請課題の選考等について審議する。 ・指導・助言をもとに改善方策を行う。	その他	課題の報告方法の確認および他機関の事例の紹介があった。	課題の報告方法に問題がないことを確認したため、現状の運用を継続することとするが、これまでも実施してきた拠点事業の採択者へのアンケートを引き続き行い、様々な意見を反映できるようにする。
蛋白質研究所	指導・助言をもとに改善方策を行う。	その他	情報科学、生物物理といった最先端の研究を共同利用としてだせるような形をとった方がよい。	なんでも相談窓口のようなものを作って、インシリコの解析などのようなものができないか議論している。今後課題募集で出せるようにする。
蛋白質研究所	指導・助言をもとに改善方策を行う。	その他	外部資金を獲得するのは大変良いが、装置使用料を取るなど自立した財源をとれるのではないか。	利用課題により課金の有・無など様々であるが、利用料の徴収を行っている。しかし、金銭的には多くない。
キャンパスライフ健康支援・相談センター	HaCC利用者アンケート	職員	診察の会話が待合室に漏れてくる。	スタッフの声のトーンを抑える、環境BGMを流すなどの対応。
キャンパスライフ健康支援・相談センター	HaCC利用者アンケート	職員	診察の待ち時間の室温が不適切。	混み具合等の状況によりエアコンや換気をこまめに調節。

## ▼意見等及び対応状況一覧＜令和6年度 ステークホルダーからの意見聴取＞

部署名	取組名	ステークホルダー	意見の内容	改善事例
日本語日本文化教育センター	学務委員会における各教育プログラム(学部留学生プログラム、日本語・日本文化研修留学生プログラム、メイプル・プログラム、大阪大学ファウンデーションプログラム、大阪・マヒドン連携短期留学日本語日本文化特別プログラム)の学生を対象とした教育活動アンケート	在学生	メイプル・プログラムの必修科目「日本語日本文化専門演習」では真面の課題を見つけ、解決方法を考えて発信するPBLを2学期目の春～夏学期に行っているが、よりよいプロジェクトのためにもっと時間をかけて取り組みたい(教育活動アンケートで複数の意見あり)。	令和6年度秋開始のプログラムでは、秋～冬学期から一年間かけてプロジェクトに取り組みるようシラバスを改善した。
エマージングサイエンスデザインR <sup>3</sup> センター	大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム・企画運営委員会からの意見収集	企業関係者	社会人教育に関し、既存の1年間のプログラム以外に、より短い期間の俯瞰的人材育成プログラムとして、令和5年度に引き続き半導体分野に関するセミナーの拡充的実施の提案があった。	半導体産業の動向および基礎から応用に関するテーマを選定し産官学の講師によるシリーズセミナー(全8回)を実施した。その結果、のべ6000人以上の多数の受講者があった(昨年の約20倍)。
知的基盤総合センター	大阪大学大学院法学研究科学生アンケート	在学生	予習、復習しやすいよう、CLE等で授業の資料を掲載して欲しい。	授業前に予め講義資料をCLEに掲載して学生に予習する機会を与え、授業後も必要に応じて資料を追加で掲載し、復習の機会も与えている。
D3センター	大規模計算機システム利用者アンケート	その他	スーパーコンピュータ利用の際に特に困るのはジョブ待ちが多いことである。私の研究では1つの計算はすぐに終わるが、その結果を自動的にチェックしながら大量の計算を逐次投入する仕組みであるため、一旦投入してからの待ち時間が長く、効率的に利用できない。そのような場合に、パブリッククラウドに自動的にジョブが回るような仕組みがあると、ジョブ待ちが減るため大変ありがたい。大学のスパコンはどうしても年度末に混雑しがちであると考えられ、そのような事態もパブリッククラウドと大学スパコンを併用することで回避が可能なのではないでしょうか。	汎用CPUノード群の利用が増加に伴い実行待ち時間が長期化する状況を受け、一部のジョブを対象にパブリッククラウド環境を利用可能とするクラウドバースティング機能の提供を開始した。本機能を利用することにより、通常より短い待ち時間でジョブを実行できる可能性があることを利用者に周知し、本機能の活用を促した。
学際大学院機構	大学院副専攻プログラム／大学院等高度副プログラム 情報交換会	教員・職員	①プログラムの申請取消はプログラム申請期間内に行うこととなっているが、当該期間後に取り消しに関する問い合わせが多く寄せられる。 ②プログラム受講者数が減っているので広報に力を入れて欲しい。	①KOANを改修し、令和7年度秋学期申請分から、プログラム取消期間の設定を可能にした。 ②i-TGPウェブサイトコンテンツの充実、受講者懇談会の公開に続き、「大学院での新しい学び方」を開講し、プログラムの存在や調べ方のレクチャーをするなど、多方面から広報に努めている。
ダイバーシティ&インクルージョンセンター	女性研究者との意見交換	教員	(任期付研究者が)産前・産後休暇や育児休業を取得した場合でも、その分任期が延びるわけではないので困った。	「大学の教員等の任期に関する法律」による任期制またはテニユアトラック制が適用されている任期付研究者について、産前・産後休暇、育児休業、介護休業を取得した場合に当該取得期間の範囲内で任期を延長することを可能とするよう、各規程を改正した。
ダイバーシティ&インクルージョンセンター	女性研究者との意見交換	教員	研究者が出張時に子どもを帯同する場合に、その旅費や一時保育料を研究費から支出可能としたり、大学が一部支援する制度がある。阪大では部局ごとに対応が異なっているので、統一的な取扱いを定めてほしい。	総務部及び財務部と連携の上、学会・研究会等の参加に伴う子の帯同費用の支給要件等について定めた全学的な取扱いを発出した。
ダイバーシティ&インクルージョンセンター	センター兼任教員を通じた部局のニーズ把握	教員	ダイバーシティ関連の意見を集約する窓口(ご意見箱など)を設置して、相談の多い意見には対応、検討するなど考えられるのではないかと	D&Iセンターのホームページ内に、目的や属性別の問い合わせ・相談窓口一覧を掲載した。
国際機構	言語学習支援・多言語多文化交流促進に関する情報交換会	教員	目的や対象がよく似た複数の取り組みが部局ごとに別々に行われており、利用者である学生や学内構成員への情報周知がうまくいっていない。	各部局が実施している言語学習支援や多言語多文化交流促進の取り組みを一覧できるリーフレットを作成し、入学予定者に配布した。また、リーフレットの内容をデジタル化し、学内のデジタルサイネージ(O+PUS)による広報活動を行った。
21世紀懐徳堂	公開講座参加者へのアンケート	その他	スライドの動画の音量が大きく、講師の声が聞こえなかった。	音量設定方法について講師に事前アナウンスを行う。 機器の接続確認を徹底する。
21世紀懐徳堂	公開講座参加者へのアンケート	その他	会場が寒かった/暑かった	空調設置を工夫する。
情報推進本部	OUICTニュースの発行及び各施策の意見照会	教員	利用者より問い合わせ先が不明あるいはわかりづらい旨のご意見をいただいた。	OUICTニュースに問い合わせのWebフォームを設けているところであるが、それに加えて、D3センターHP更新に伴い、各HP(サイバーメディアセンター、情報推進本部)の統合を行い、デザインを改善した。これにより、利用者は複数のサイトを探し回る必要はなくなり、HPのトップ画面からタブメニューの「全学支援サービス」から、目的のサービスに関する情報へのアクセスができ、問合せ先にも辿り付きやすくなった。

▼意見等及び対応状況一覧＜令和6年度 ステークホルダーからの意見聴取＞

別紙5

部署名	取組名	ステークホルダー	意見の内容	改善事例
ミュージアム・リンクス(総合学術博物館)	こどもミュージアム、わくわく学習教室参加者へのアンケート	地域住民	高校生向けにもこのようなイベントが欲しい	R6年度からリンクスの事業として、高校生向けの大学体験イベントを開催おり、R7年度も引き続き開催予定である。
ミュージアム・リンクス(総合学術博物館)	こどもミュージアム、わくわく学習教室参加者へのアンケート	地域住民	このようなイベントをたくさん開催して欲しい	R7年度からは午前・午後の二回開催(抽選方式)として、より多くの方に参加いただけるようにした。